

内水対策事業(排水機場)について

平成19年2月20日

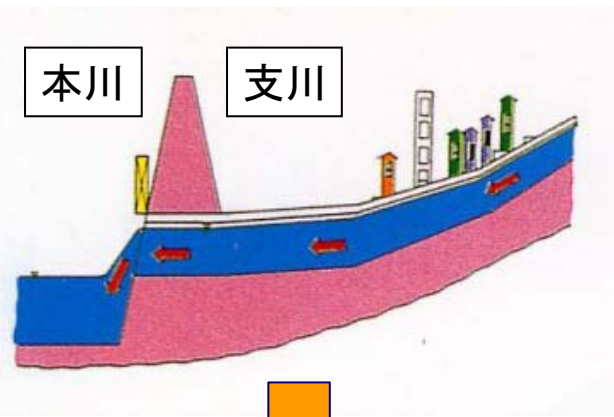
中部地方整備局河川部

内水とは？

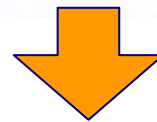
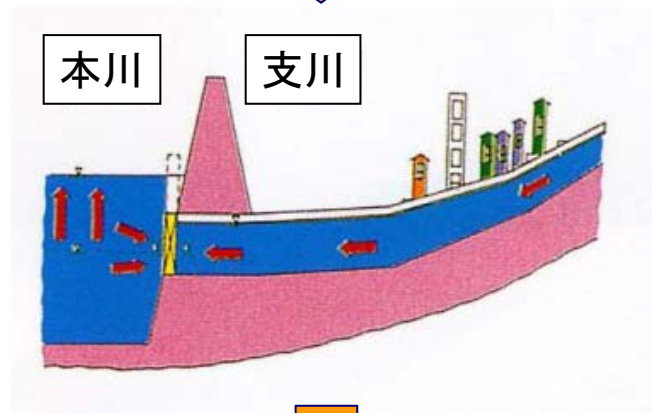
大雨が降ると住居部の地盤高より、本川の水位が高くなり支川の水が流れない状態になります。

その結果、行き場を無くした支川の水が氾濫し、浸水被害が発生します。これが内水被害です。

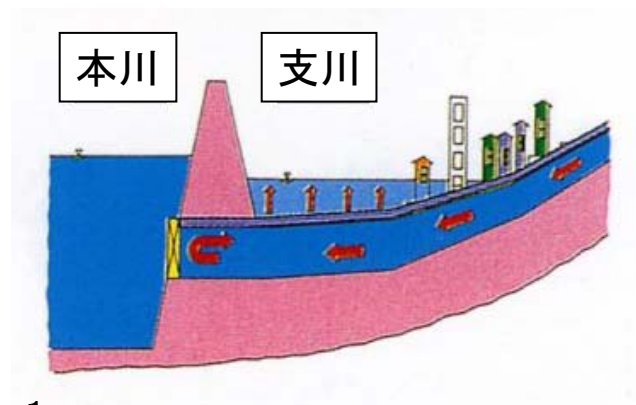
洪水もなく本川の水位よりも支川のほうが高ければ、支川の水はそのまま本川に流れます。



洪水で本川の水位が支川よりも高くなると、本川の水が逆流して氾濫しないようにゲートを閉めます。



しかし、洪水が長引くと、支川の水は行き場を失い氾濫することとなります。

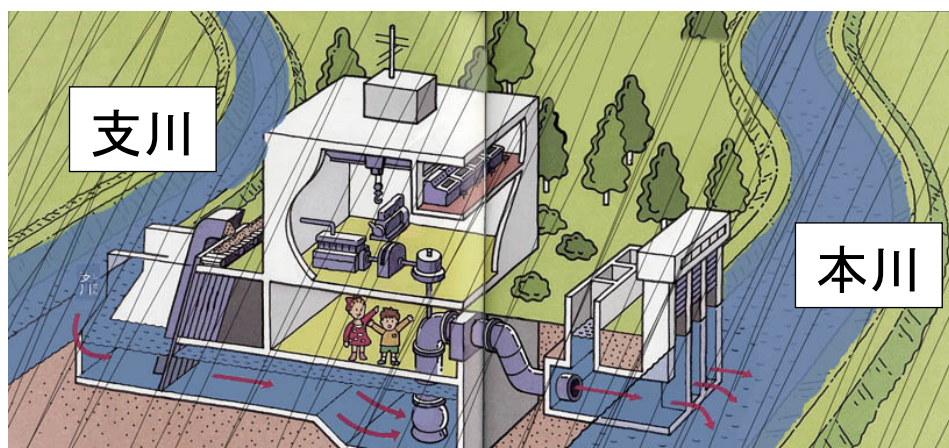


排水機場とは？

排水機場とは、本川の水位が高くなった時、行き場をなくして氾濫する支川の水を強制的に排水し、内水被害を防ぐための施設です。



○出水時の排水 (側面から見ると)



排水機場の計画

○許容湛水位

一般的に内水を全く湛水させなくすることは現実的に難しいため、田畑などしか存在せず、浸水しても重大な被害が生じない一定の高さの範囲までは湛水を許容する計画とし、この高さを許容湛水位と呼びます。

○排水機場の大きさ

流域内の資産や既往の災害実態などから計画の規模を定め、この規模の降雨による湛水を許容湛水位以下に抑えることができる大きさの排水機場を計画します。

